

第4章 鶴見線・南武支線

第1節 9月23日(火):鶴見～扇町～尻手 晴れ

鶴見(11:20)～国道(12:28)～鶴見小野(12:45)～弁天橋(13:00)～浅野(13:16)～
安善(13:54)～武蔵白石(14:23)～浜川崎(14:54)～昭和(15:17)～扇町(15:52)

浜川崎～小田栄～川崎新町(16:37)～八丁畷(なわて、16:57)～尻手(17:20)
浅野～新芝浦(13:30)～海芝浦
安善～大川

2003年9月23日(火)、天気がよいため、急遽思いつき本日のコースに挑戦することとした。自宅を10時前に出る。小田急線・相鉄線・京浜東北線を使用して、本日の出発点となった鶴見駅に向かう。相鉄線の電車の中で、本日の作戦を練る。また、時刻表から本日登場するであろう駅と各駅の営業距離をノートに転記する。駅の間隔を知らないと、時間の配分ができない他、誤った動きへの牽制ができない。それから、日没近くなつての終着駅をどこにするかの判断材料を欠くことになくなる。



※鶴見駅、鶴見神社

鶴見駅には、11時20分頃到着。鶴見駅は京浜東北線走破の際通過駅だったので懐かしく思えた。疑うことなく、川崎方面に進む。鶴見神社前を11時25分通過。鶴見川を渡り、200m位進んだところで、右手側に京急線を見る。変だと思い、地図をよく確認したところ、横浜方面に進むべきところ、川崎の方向に進んでいた。本日は、幸いなことに現在位置を確認できたので、パニック状態にならなかつた。30分程度のロスタイムがあつたが、おかげでタマちゃん騒動で有名になった「鶴見川」に沿って散策することができた。途中、菅沢町を11時55分通過。鶴見川に跨る橋を4から5箇所越える。



※国道駅、鶴見小野駅

青色の臨港橋(昭和56年3月竣工)を渡り、鶴見駅側にある国道駅には12時28分に着く。再度渡る臨港橋には、沢山の鳥が群がっていた。橋下には海の方角に進む釣り船(新明丸)があった。鶴見小野駅には12時45分に到着。駅には、鶴見駅行きの電車を沢山の人が待っていた。まもなく、上り電車が来る。線路は複線で3両編成の黄色の電車(以前の南武線車両)であった。



※弁天橋駅、浅野駅

弁天橋駅には13時到着。弁天橋駅辺りから、工業地帯の風景となる。旭硝子、読売新聞、ダスキン、富士電機等の企業があった。鶴見産業道路上に入船公園があった。浅野駅には、13時16分到着。この駅で、鶴見線用と支線用に分かれていた。線路を渡り、支線にある新芝浦駅と海芝浦駅に向かう。支線に沿った道路は東芝の私有地のため、「車の進入は遠慮願いたい」旨の掲示板を見る。それで、挑戦するかどうか迷ったすえ、とりあえず行けるところまで進むことにする。0.9Km先の新芝浦駅には13時30分に到着。終点の海芝浦駅に進もうとしたが、100m先に検問所があるのを見て、引き返すことにする。13時40分、海芝浦行きの3両編成の数人の乗客を乗せた電車に遭遇する。



※新芝浦駅、安善駅への路

安善(あんぜん)駅には、13時54分到着。今日は、祝日のため、食堂は閉まっていた。偶然にも、駅前のきそば「竹本」が開いていたので、遅い昼食をこの店で取ることにする。野菜炒め定食を注文する。赤だしがとても美味しかった。20分程度休憩後出発する。武蔵白石駅には14時23分到着。本日は、12Kmの営業距離に駅数が15～16個あり、記念写真を撮るのに忙しかった。武蔵白石踏切と竹の下踏切を通り、浜川崎駅には14時45分に到着。浜川崎駅も浅野駅と同様、鶴見線用の駅と南武支線の駅とが別々であった。この駅は道路をはさんであった。



※安善駅、武蔵白石駅

川崎港郵便局と目と鼻の先に途中ゴミ焼却場があり、扇橋辺りから空気が急に悪くなって来た。風が強く、煙が道路の方向に流れていた。口をタオルで塞いで通過する。昭和駅には15時17分、終着扇町駅には15時32分到達。昭和駅で扇町駅行きの電車に対面する。扇町駅から200m位先に三井埠頭のバス停があった。ここから先は、新芝浦と同様、検問所があった。扇橋近郊には、コンビニート用の設備があった。



※浜川崎駅、昭和駅



※扇町駅

扇町から電車で移動しようと思い、時刻表を見たところ、16時まで電車がなかったので歩いて浜川崎まで引き返すことにする。往路と同じ道1.3kmを引き返す。浜川崎駅は16時5分だった。この駅に着くや否や、尻手駅行き2両編成の電車が通過する。鶴見線の電車に比べ、南武線で見かけるのと同タイプの新形の電車だった。県立川崎南高校前を16時20分通過。JR線に沿い、小田踏切、小田踏切第五踏切を縫ってジグザクで進む。金網越しで川崎新町駅には16時37分に着く。



※川崎新町駅、京急八丁畷駅

神奈川都市交通の事務所経由で、八丁畷駅(なわて)には 16 時 57 分に着く。この駅は京急と交差していた。東海道、京浜東北線の踏切で 3 本の上り下りの通過電車を待ち合わせる。この踏切の右手 500m 位先に川崎駅が見えた。同時に南武線の下り電車が通過するのが見えた。終着駅尻手駅には 17 時 20 分到着。辺りはうす暗くなって、駅前の飲み屋の赤提灯が目立つ時間帯となっていた。「暑さ寒さも彼岸まで」ことわざ通り、2 日前とは気温がまったく異なっていた。幾分か風を少し冷たく感じた。しかし、一方では夏の風物詩である蝉の鳴き声も聞いた。今日の営業距離は 12Km。万歩計は器具により誤差があり、本日から万歩計を変えたので、これまでの統計値と乖離(最大 2 割増)が生じるかも知れない。そのため、本日の万歩計は 59,670 歩まで伸びた。帰りは、朝の全く異なる南武線・田園都市線・小田急線を使用。帰宅時間は 18 時 48 分だった。



※尻手駅